

静岡文化情報

街かど

No.3

1995.8

●静岡市として残したい文化・創りたい文化

静岡学園短期大学学長 若林淳之

●水と緑と歴史の里・藁科

静岡市教委社会教育課 黒澤 脩

生誕100年記念展

●芹沢銈介ー春夏秋冬

芹沢銈介美術館長 青山辰巳

文化のルーツを求めて③

●静岡の美「駿河竹千筋細工」

静岡竹工芸協同組合理事長 黒田英一

●楽しき玩具…俳句への招待

市民俳句大会実行委員会委員長 本宮鼎三



駿河竹千筋細工・虫籠

静岡市として 残したい文化・創りたい文化

静岡学園短期大学学長 若林 淳之……………1

水と緑と歴史の里・薫科

静岡市教委社会教育課 黒澤 脩……………4

生誕100年記念展

芹沢銈介＝春夏秋冬

芹沢銈介美術館長 青山 辰巳……………6

文化のルーツを求めて ③

静岡の美「駿河竹千筋細工」

静岡竹工芸協同組合理事長 黒田 英一……………8

楽しき玩具——俳句への招待

市民俳句大会実行委員会委員長 本宮 鼎三……………9

がんばっています!!市民の文化活動 ひびきの会・各流琵琶演奏会・オレンジノート……………10

INFORMATION……………12

編集後記……………13

CONTENTS

静岡市として 残したい文化 創りたい文化

静岡学園短期大学学長 若林 淳之



残したい文化 を言うまえに

静岡市に今ある文化で、残したい文化は何で、創りたい文化は何かということ、それは大変難しい問題である。難しい問題ではあるが、それを言う前に、考えて置かねばならない課題があるように思う。

静岡市には、建造物として国の重要文化財として指定されている久能山東照宮社殿や、神部神社、浅間神社、大歳御祖神社等の社殿ならびに臨濟寺本堂等があり、また静岡県文化財として指定されている清水寺観音堂などもある。いずれも由緒ある文化財である。

ところが、これら文化財は建造物として指定されていることから、これらの建造物を構成している建築、彫刻、組物、漆塗り、意匠（デザイン）等々の優れた技術ならびにそれにとまなう文化など、建造物の中の一括されてしまって、全く表面に出てこないのが現実で、それらはあくまでも建造物であって、この町とはかかわりない文化であると思っている人々が少なくない。

静岡特産工業協会では、『するが産業工芸史』というユニークな工芸史を発刊し、その中で竹千筋細

工、雛具・雛人形、木製家具、漆器、蒔絵、指物、挽物等々の諸工芸を取り扱い、これら工芸発達の遠因、近因を考え、それは久能山東照宮や浅間神社の造営事業と密接不可分の関係にあることを力説している。そうして、これらの造営には、名も無き多数の匠がかかわっていたのである。その名をとどめることもなく、現代につながっている現代に繋げる技術・文化の伝承者を、工芸家とよび、その作品も工芸品と呼び、あえて「静岡の文化」ということを躊躇らっているかのよ



久能山東照宮本殿
(重要文化財)

清水寺観音堂厨子
(県指定有形文化財)



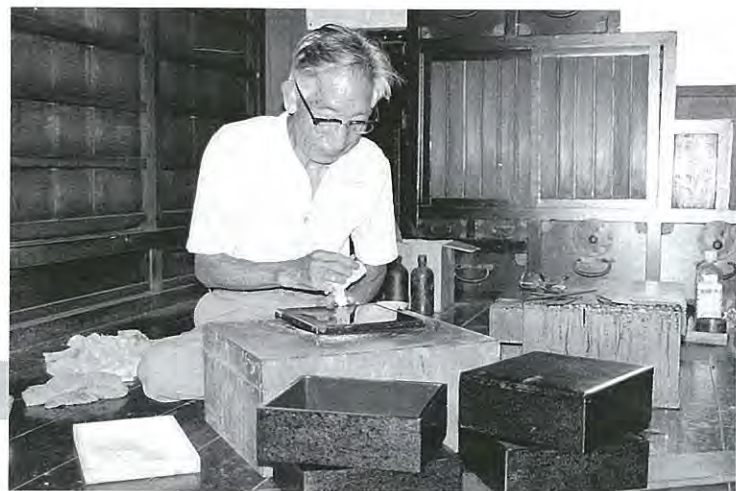
知られない 静岡のこの文化

うに思われるのである。こうした歴史と伝統のある技術こそ、まさに文化であって、これこそ「静岡の文化」であると再認識する必要があるように思っている。

ところが静岡市のこうした文化も、一步静岡市から外に出ると、静岡のそうした文化的営みを知らない人が多く、知っているも比較的高齢の人が、さもなくば、そうした営みの沈滞しきった時のことしか知られていないというのが現実である。ある時、私は会津で蒔絵作家にお目にかかり、静岡の蒔絵について伺ったことがあった。静岡の蒔絵もかつては栄光の時代もあったけれど、蒔絵の技術開発に失敗して、いま沈滞のどん底から這い上って、秀でた作品が沢山創作されている現実を全く知らないように思

われたし、また木曾漆器で有名な平沢(長野県木曾郡榑川村)を訪ねたとき、若い漆器店経営者は静岡漆器について全く知らなかった。けれども、その若い経営者の父はさすが静岡漆器のことを知っていた。

このように、静岡の漆器について、他の同業者に知られていなかったり、知っているも誤解に基づくものであったりしているのは、静岡の産業文化が正しく内外に知らされていないことを示すものであって、当然のごとく今後はこうした「静岡の文化」を各地に発信することが必要であると思われるのである。



駿河漆器の仕上げ
(市伝統工芸技術
秀士八木秀雄さん・
羽鳥在住)



聖一国師生誕の地
(市内栃沢)

欲しい 文化の創造

周知のように、静岡は茶の町である。しかし、この茶の町も、最近の緑茶離れの進行で、その前途にはきびしいものがあると言われている。こうした時、古い茶産地宇治には、かつてこれを支える公家社会、武家社会さらには京都町衆等々と、強力な文化社会があった。静岡の茶は量的には全国屈指であっても、それを支える文化社会の存在は希薄である。こうした欠落を克服するため、静岡の茶の文化を創出するためには相当の努力をする必要があるように思う。それには足久保に伝わる行基伝承

を考えたり、栄西ではない、聖一国師が何故静岡に茶を招来したのかということに始まって、実際に茶生産に携る人々の風俗や習慣等々を再検討をして、それらを総合して人々にアピール出来る静岡の茶の文化を創造し、静岡茶の文化的社会的基盤を形成することが肝要であると思っている。

いっぽう紀州日高郡竜神村は、和歌山県第一の椎茸産地である。ここの椎茸栽培は18世紀から19世紀にかけて、安倍郡奈良間村の椎茸師常蔵らが、この村に入って村人に教えたことによって盛んになっ

たものといい、この地の人々は、椎茸栽培の恩人常蔵を懇ろに供養しているともいう。こうした名もない、しかも忘れ去ってしまった椎茸栽培の文化についても掘り起こして、「静岡の文化」の再生と構築をはかる必要があるように思う。

ベレー帽を被ったモダンな文化人の説く文化よりも、捻り鉢巻きをして額にタラタラと汗をかきながら、精魂を込めて働く職人や農民たちの十年一日の如き生業のなかの文化に注目しながら、個性ある「静岡の文化」を創造したいものだと思っている。

椎茸師之祖 奈良間村常蔵の墓
(和歌山県日高郡竜神村字宮代
東光寺)



水と緑と歴史の里・藁科

静岡市教育委員会社会教育課 黒澤 脩

安倍川最大の支流が藁科川である。この藁科川が形成した地域全域が、「水と緑と歴史の里・藁科」で、その面積は藤枝全市よりも広い。したがって、大半が山々で構成された山岳地域が全体の95%以上を占めている。静岡市に合併する以前の藁科地区は、右岸・左岸に展開する、「服織村・南藁科村・中藁科村・清沢村・大川村」の5か村からなっていた。現在は、静岡市の奥座敷的要素を秘め、また藁科川の水質は全国的にも上位に入る。そのため、美味なる「鮎」の産地であることは今川時代からも知られていた。さて、そんな「水と緑と歴史の里・藁科」を訪ねてみよう。

藁科の歴史は古い。服織の地名が語るように、古(いにしえ)は渡来人が「機織」(はたおり)の技術をこの里に招来させている。服織は機織りを生業とした職業集団の里ということになる。

彼らは、自分たちの精神文化の拠り所としてこの地に「建穂寺や建穂神社」を創建した。このため、寺の歴史は、寺伝によれば白鳳13年(662)の創立と伝えている。また、信頼できる『延喜式神名帳』

という古記録によれば、神社は延長5年(927)にはすでに存在し、この地域の中心的神社であったことがわかる。

そんなことから、建穂寺が藁科全域に与えた影響は今日でも色濃く残っている。建穂寺という寺は格式の高さは勿論のこと、学問の寺として昔から有名であった。修行僧たちは学問を中心として修行に勤しみ、真言宗の教えもあって山々を修行の道場としていた。そのため、「安倍・藁科・川根の山々」を修行の道場としていたことから、建穂寺の影響を色濃く残す「藁科弘法21ヶ所」の霊場は建穂寺が本山として、藁科の山奥にまで広がっている。

そんな藁科は、平安時代になると安倍山の一部も加わって天皇家の荘園「服織荘」と呼ばれていた。



静岡県名勝「木枯の森」



建穂の仁王



谷津教会(市内新聞)

静岡市民の多くが訪れる木枯の森は、藁科川下流の中州にある川中の森である。この「木枯の森」の存在が遠く都にまで聞こえ、清少納言の『枕草子』にも登場したのは、服織の荘園が鳥羽八上院の所有に関わっていたことにほかならない。

平安中期の『新後拾遺集』に、「人知れぬ思ひするがの国にこそ身を木枯の杜はありけれ」という歌があるが、最近の研究では小野小町の歌といわれている。そんな「水と緑と歴史の里・藁科」の新聞に中勤助文学記念館が今年の6月1日にオープンしたことは誠に嬉しい。中勤助文学記念館をベースに、「水と緑と歴史の里・藁科」をじっくりと味わってみたいものだ。

中勤助文学記念館「杓子庵」



黒澤脩プロフィール

静岡市教育委員会社会教育課副主幹。静岡市100周年記念「静岡駿府博覧会」では歴史テ

マ館・駿府館のプロデュース担当。奥藁科エコ・ミュージアム主宰。著書「徳川家康と駿府城下町」、「駿府三十三所観音巡り」等。昭和21年生。

●生誕100年記念展

芥沢銈介

春夏秋冬



芥沢銈介美術館館長 青山辰巳

静岡の生んだ偉大な芸術家芥沢銈介。奔放なデザインを駆使し「型絵染」の作家として初の人間国宝（重要無形文化財保持者）に認定された芥沢銈介は、地味な染物に、自ら「瞳目した」という沖繩紅型の明るい色彩と伸びやかなデザインの技法を取り入れた。作品は大胆なデフォ

ルメ構成が加えられ、幅広い色使いとあわせて独創的な型染の世界を創り上げた。

市立芥沢銈介美術館では本年「芥沢銈介生誕100年」を迎え、昨年から市内の学識者、染色家、愛好家に企画に加わってもらい事業計画を検討してきた。特に「市民に馴染みがない美術館」と言われてい

たので、「市民に開かれた、愛好される美術館作り」の絶好の機会とご提言をいただいた。その結果、芥沢の作品世界と人間性を講演会等で追求するとともに、市民との交流を調査し、その成果を展示に反映させることを中心にすえた。

まず講演会をいくつか計画した。芥沢模様を使って商品化に努めた

増田拓益氏（茶商）に職人氣質の芥沢を語っていただいた。気難しい芥沢は増田氏の試作したデザインになかなか「OK」を出してくれない。そんな時、奥さんであるたよさんの「なかなかいいじゃない」の一言でまとまったという。たよさんには銈介氏も一目置いたというエピソードに聴衆の笑いを誘った。

また、5月には東京蒲田の工房時代のお弟子さん達に語ってもらったとき、破門された時の芥沢の厳しさを思い出し、緊張で声もこわばり、我々にもぐっと伝わってくるものがあった。一方、皆を集めて餅つき大会や誕生会など、賑やかさを求める芥沢は寂しがり屋で、心暖かい持ち主であったということも知り、何かほっとしたものがある。

芥沢研究に取り組む稲葉昌代氏

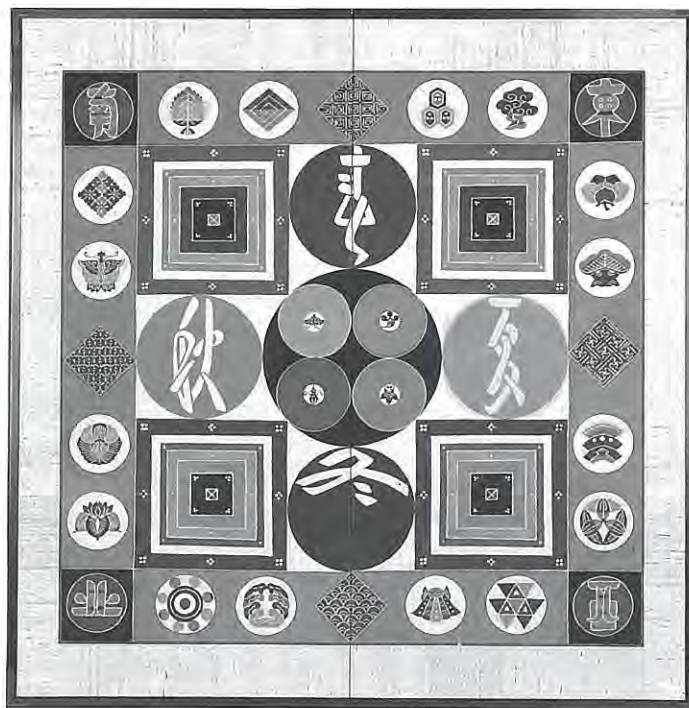
（常葉短大助教授）は、調査を通して芥沢の梵字作品には秘められた心の葛藤や奥さんへの深い愛情表現があったという。独特の感性で分析推理する展開に思わず引き込まれた。たよさんとの二人三脚で火災や倒産、戦災など幾多の困難を乗り越えていったというくだりは「春夏秋冬」の布文字屏風が脳裏に鮮やかに蘇ってくるのであった。

のれんや屏風といった作品が「もの」としか見えなかったのが、講演で芥沢の「こと」や「人となり」を知り、「想い」をもって観ることができ、新たな発見の鑑賞となった。

この後、7月27日には芥沢長介氏（ご子息）の講演、8月11日には大久保満男友の会長をはじめとしたパネルディスカッションを行い、さらに意義あるものになった。

さて、記念展は基礎となった「静岡時代」、紅型との出会いを中心とした「東京蒲田・沖繩の仕事」、人間国宝認定後の奔放かつ大胆な制作を展開した「鎌倉腰越工房から晩年まで」の3時代に分けて展示した。静岡時代では市民から未公開の作品をお借りしたりして意義のあるものになった。それと同時に地元の芥沢研究は今始まるという感を強くした。

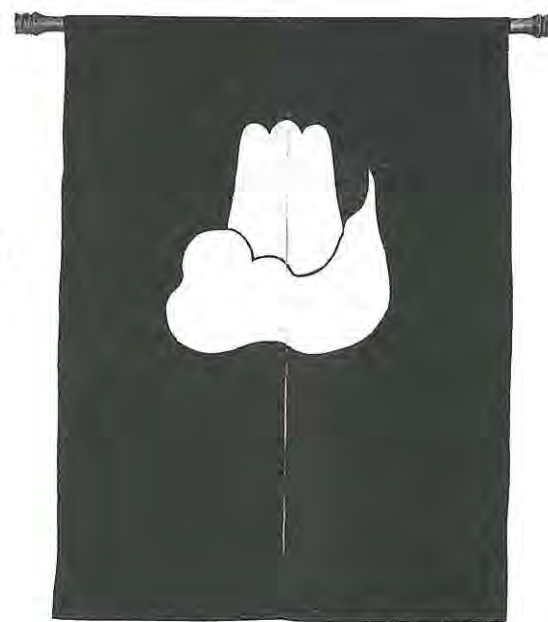
画才に恵まれ、写生を重視し、デザイナーとしての慧眼を持ち、コレクションで「用の美」の審美眼を養い、染色を通して民芸の道を追究してやまなかつた姿は最終展示室で燦然と輝いて見え、私たちに「創造の精神を常に持ち続けよ」と呼びかけている。



◀四季曼荼羅図二曲屏風（作・1971年）



▲福の字のれん（作・1955年頃）



▲富士の雲文のれん（作・1967年頃）



梵字（うん）▶
（制作年不詳）

静岡の美 駿河竹千筋細工

静岡竹工芸協同組合理事長 黒田 英一

さらさらと新緑の風に鳴る竹林。季節や天候によって、ある時、見る側の気持ちによって竹林は微妙に表情を映し出します。苦竹は、3か月程で親竹になり成長が止まり、1日120cmの伸びであります。さらに竹は地下茎で繁殖し、開花した時は枯死を意味するので、ほかの植物とは少し違っています。

竹を好む日本人は、見るだけではなく素材として活用し、古くは弥生時代に使用され、その証拠として静岡市内の登呂遺跡で竹ざるが発見されています。

私が子どもだった昭和14年(1939)頃、静岡市中に竹林があった事を覚えております。江戸時代にはきつと良質の竹が多くあり、

この地の竹細工を盛んにした一因になっていると思われま

す。江戸時代の初期、徳川家康公が將軍職を退き駿府城に入城すると、大好きな鷹狩りのための餌箱を同心たちに作らせ、これが駿府の竹細工の始まりと言われてい



ているように、当時は盛んだった事がわかります。

また駿河の竹細工は下級武士の内職によって支えられた伝統もあり、草深同心の苦心の末創作した竹製の編笠がよく売れ、同心40余戸は内職としてことごとくこれに従事したとの事です。さらに天保11年(1840)、歌道・華道・茶道など諸芸に秀でたといわれた岡崎の藩士菅沼一我が、諸国行脚の途中駿河の宿屋に泊り、清水猪兵衛等に技術を教え、今までより数段繊細な作品を造り広められました。

明治6年(1873)、千筋細工は明治新政府の海外貿易政策により日本の特産品としてウイーン国際博覧会に参加しました。竹千筋細工も出品され、竹ひごの繊細な雰囲気



黒田 英一
プロフィール

16歳で、叔父の杉山猛氏に師事、22歳で独立。伝統工芸品に指定されて以後は、新しいデザインの作品を進めてきた。北京(1992)及びニューヨーク(1993)の伝統工芸品展の実演では人気を博した。田町一丁目在住。64歳。

楽しき玩具

—— 俳句への招待 ——

市民俳句大会実行委員会委員長 本宮 鼎三



「類は友を呼ぶ」という諺がありますが、最近、私の周辺には俳句を作る仲間が増えてきました。この仲間のような、それとなく眺めていますと、瞳は輝き、潑刺とした容姿で年齢より若く生きているのが、うかがえます。それはなぜか…。そう「知人ぞ知る」ですが、端的に言えば「心の支え」を持っているからだといえましょう。

その反面、「俳句アレルギー」あるいは「俳句食わず嫌い」という人も多いことは事実だと思

います。そこで次の句を挙げてみましょう。
ひなたん きこん さくらばな まり
 雛段の左近の桜花の毬
やまくちせいし
 山口誓子
いちりん はな
 一輪の花となりたる揚花火
 同

文化功労者の誓子は平成6年3月26日に92歳で亡くなりました。上の俳句は、いずれも90歳過ぎの作、逝去されるまで、みずみずしい感性で眼の前の美しい風物を、素直に写しとるように詠っていました。

よく「俳句はむずかしい言葉

を知らない」といいますが、最近、私の周辺には俳句を作る仲間が増えてきました。この仲間のような、それとなく眺めていますと、瞳は輝き、潑刺とした容姿で年齢より若く生きているのが、うかがえます。それはなぜか…。そう「知人ぞ知る」ですが、端的に言えば「心の支え」を持っているからだといえましょう。

「類は友を呼ぶ」という諺がありますが、最近、私の周辺には俳句を作る仲間が増えてきました。この仲間のような、それとなく眺めていますと、瞳は輝き、潑刺とした容姿で年齢より若く生きているのが、うかがえます。それはなぜか…。そう「知人ぞ知る」ですが、端的に言えば「心の支え」を持っているからだといえましょう。

その反面、「俳句アレルギー」あるいは「俳句食わず嫌い」という人も多いことは事実だと思

います。そこで次の句を挙げてみましょう。
なかにわらていしよ
 中村汀女
たれ
 誰もみなコーヒーが好き花曇
つばはしたかしよ
 星野立子

「四T」といわれた現代俳句の代表的な女流作品。四人ともに故人ですが、やさしい言葉で名作を遺しています。一所懸命、そして沢山、句作をすれば、誰でもいい句ができるでしょう。
このはななくやひめ みや
 花終る木花咲耶姫の宮
もとみやていそう
 本宮鼎三
あきかせ ちやまち め
 秋風や茶町を抜けて車町
 同

私の句ですが、前句は浅間神社、後句は町名入り。いずれも某歳時記の例句。私達の静岡市の美しさを再発見する要があると思います。

私が俳句をやっていてよかったと思うことは、一にあきらめ、二に決断、三にゆとり。街頭で赤信号という時も
しんりよく なか しんごうあか き
 新緑の中に信号紅く咲く
 本宮鼎三

こんな句を作っていれば、いらいらしくなくても済むでしょう。俳句を作るには、一に会う、二に見る、三に作る。つまり師や仲間へ会う。自然や人情風物、そして『歳時記』を見る。沢山、俳句を作る。この三つをのみこんでいけば、いいと思います。しかし、なんといっても大切なことは、一句の中に挨拶の心がこもっていなければならないでしょう。自分のことはさて置き、相手の安否を気づかう…。この精神で作句すれば「いい句」ができると思います。

石川啄木は短歌を「悲しき玩具」といいましたが、私は俳句は、生きていくための楽しき言葉の遊び、つまり玩具だと思っています。

貴方も人生を楽しむために俳句を作ってみませんか…。

◆で好評を博しました。

戦後は、アメリカを中心にヨーロッパ等、竹のもつ繊細さが好まれ輸出されました。昭和48年(1973)はドルショックにより主力の海外輸出が打撃を受け、注文が少なくなり、転職する人々が出

た苦しい年でした。昭和51年(1976)、通産大臣より伝統的工芸品に指定されてから、生まれかわったように組合員が協力し、振興事業を行って来ました。そして現在、技術の向上がみられ、また展示会等によるPR活動で広く消費者の

方々に知っていただくようになりました。10数年前には地元の方でさえ知らない人が多かったのに、竹千筋細工の今の発展は皆の努力と行政をはじめ関係の方々のご指導の賜と深く感謝しております。

〔写真提供・静岡竹工芸協〕

がんばっています!! 市民の文化活動。

録音図書作り

朗読ボランティアひびきの会代表 古田多佳子

公共図書館は、全ての人に蔵書を提供しなくてはなりません。けれども視覚障害の方は、本を「読む」事ができません。昭和59年(1984)、市立中央図書館開館と同時に、そうした方々のために蔵書

を録音テープ化するボランティアとして発足しました。仲間は現在40人、ほとんどが女性です。

音声化する本は、文芸書ばかりではありません。医学・宗教・市の広報紙・市議会だより等があり



文化の盛んになることを願って

オレンジノート代表 小澤絹子



今回は、平成6年度静岡市文化振興財団の文化活動助成金の交付を受けたグループに登場していただきました。

ます。難しい字句や地名など根気良く調べ、一字一句間違いないで読んでゆく、決して楽な仕事ではありません。地道な地道な仕事なのです。

でも本を読むと、生きた事のない時代、知らない場所に行く事が出来ます。頁をめくる度に、自分と違う人生を生きた事が出来ます。見えなかったり、頁がめくれないためにそうした喜びをえられない方が居るのなら、一冊でもテープ化してこの楽しみを分かち合いたいと思っています。その他対面朗読や発送の仕事、また少しでも聞き易いテープを作りたいと、年間7・8回の研修をしたり、県内各市町村のボランティア団体と連絡をとり合っています。

利用したい方、入会希望の方は市立中央図書館(247-6711)へご連絡ください。

今、街でどんなことが行われているかご存じでしょうか。市にある大、小のホールではコンサートもありますし、演劇なども行われています。また、美術館はもちろんのこと、デパートや銀行のロビーのような所でも、いろいろな展覧会があります。ほんの数年前まで静岡は文化のないところ、文化果つところなどと陰口も言われていたことを思うと、今日の状況はうれしい限りです。ストレス社会でもある現代は、心をリフレッシュさせる意味も含めて文化を楽しむ必要があります。

忙しい仕事をお持ちの方でも、予定がわかれば種々の文化に接することができます。そのお手伝い

筑前琵琶の伝承者・加藤旭晃さん

各流琵琶演奏会

琵琶と言えば「平家琵琶」を誰もが連想しますが、琵琶にもいろいろとあり、現在、主に伝承されているものは「薩摩琵琶」と「筑前琵琶」で、加藤旭晃さんは静岡で只一人の筑前琵琶の伝承者です。おとしは80歳、お父様が筑前琵琶のお師匠さんで、加藤さんは5歳のときから兄妹さんと共に琵琶を習い始め今日に至っております。「あのころは朝窓を開けて見ると琵琶を習いに来た人が何人か待っていたものですヨ」と加藤さんは語り、琵琶でも習わなければ良いところに嫁に行けないなどと言われたのもこの頃で、今では考えられない琵琶が大変流行った大正から昭和の初めの良き時代の頃の事です。

戦中戦後は琵琶もすっかりすたってしまい、それでも昭和26年(1951)静岡の琵琶協会が発会した頃は、NHK、SBSでラジオ放送をしていたとのことです。

現在、静岡の琵琶協会では毎年1回の演奏会と毎月の例会を開き、弾交会を開催しており、それは流派を超えて若手の育成と琵琶楽発展のための勉強会でもあり、加藤さんはそのリーダー役でもあります。「琵琶唄の詞はただ読むだけでも大変良いもので感動するものですヨ」と加藤さんは元気いっぱいです。



静岡市曲金一丁目4-16 静岡県琵琶協会(松浦方)

☎286-4873

ができれば情報誌『オレンジノート』を発行しています。2か月に1回の発行で、今年で7年になりました。情報量は創刊時の3倍になっています。良い観客が多く居ることは文化を育てる上に不可欠なものです。文化に関心を持って、

観客にそして作り手に、大勢の方々が参加して下さることを願っています。『オレンジノート』を大いに利用して下さい。連絡先：静岡市石田二丁目9番12号。小澤絹子(☎285-4044)

第13回 静岡市民芸術祭

主催／静岡市文化団体連合会
後援／静岡市教育委員会
会場／静岡市民文化会館

問い合わせ先：静岡市文化団体連合会事務局 (054-254-2197)

内 容	会 場	期 間	時 間
書 道 展	A・B展示室	10月25日～10月29日	9:00～16:30 最終日は15:00まで
写 真 展	C展示室	10月25日～10月29日	9:00～16:30 最終日は15:00まで
コンセールリ・ベルテ公演	大ホール	10月29日	15:30～17:30
俳 句 ・ 俳 画 展	A展示室	11月1日～11月5日	9:00～16:30 最終日は15:00まで
華 道 展	B展示室	11月1日～11月5日	9:00～16:30 最終日は15:00まで
花 の 会 展	C展示室	11月1日～11月5日	9:00～16:30 最終日は12:00まで
ロ ッ ク コ ン サ ー ト	大ホール	11月3日	15:00～21:00
よ い 映 画 を 見 る 会	大ホール	11月5日	10:00～16:00
市 民 川 柳 大 会	大会議室	11月5日	10:00～16:00
美 術 展	A・B・C展示室	11月15日～11月19日	9:00～16:30 最終日は15:00まで

●静岡音楽館 秋のシリーズ (チケット発売中)

問い合わせ先：静岡音楽館へ (054-251-2200)

開 催 月 日	公 演 内 容	入 場 料
10月15日 (日)	静岡浅間神社の稚児舞と東京楽所の舞楽	3,000円
10月27日 (金)	A.ビルスマ J.S.バッハ無伴奏チェロ組曲	3,000円
10月28日 (土)	「鳥獣戯画」東京混声合唱団	2,500円
11月3日 (祝)	バルトークメモリアルI 子どものためのバルトーク	①1,000円 ②2,000円
11月4日(土)・5日(日)	「静岡の名手たち」オーディション	無 料
11月7日 (火)	シリーズ折々のうたI 「今様・折々」	2,500円
11月10日 (金)	バルトークメモリアルII 農民音楽とバルトーク	3,000円
11月29日 (水)	ロンドン・ブラス	①1,000円 ②3,000円

チケット取扱所：静岡音楽館A O I 7階受付、JR東海静岡主要27駅みどりの窓口、チケト・セゾン、すみや本店、静岡谷島屋本店 (上記入場料の①は小・中学生、②は高校生以上の料金です。ただし、①のチケットは静岡音楽館A O Iでのみ発売中です。)

市民ギャラリー企画展

日 所／平成7年10月4日 (水)～10月18日 (水)

場 所／静岡市民ギャラリー (市役所本館1階)

静岡市が購入したり、また、寄贈を受けた絵画をはじめとした美術品を一堂に展示して、皆さんに鑑賞していただきます。(入場無料)

問い合わせ先／(財)静岡市文化振興財団へ (054-255-4746)

アイデアと伝統の味

創業大正元年



入船鮓

◇アイデア立喰コーナー

◇お好みお座敷カウンター

◇宴会場大・中・小300名様

◇割烹お座敷大・小

コンパやご宴会に……

■すし懐石 ■すし折詰 ■入船弁当

お好みにより、調整いたします。

※市内一円どこへでも配達致します。

※モギ店・パーティー出張も承ります。

両替町店

(静岡駅北口より7分)

☎252-9178

本店

(静岡駅北口より7分)

☎255-4401

南店

(静岡駅南口より1分)

☎282-1158

ターミナル店

(静岡駅正面より1分)

☎254-1158

登呂店

(静岡市SBS通り)

☎284-5151

編集後記

静岡市内のとある宿——。お客が部屋に通されました。そこで、客と宿の主人との間で次のような会話が始まりました。

客「静岡といえば、お茶が有名ですね。」

主人「そうなんです。静岡のお茶は、その昔、静岡の柘沢出身の聖一国師という僧が、宋の国から茶の種を持ち帰り、足久保という所に植えたのが始まりなんですよ。」

客「そういう長い歴史が静岡はあるんですね。ところで、美味しいお茶の入れ方はどうやるんですか。」

主人「1回分のお茶葉を急須に入れます。お湯は、70度に冷まし、茶碗の量の分だけ入れます。そして、残らず茶碗に注ぎます。そうすると、美味しいお茶が味わえるんですよ。今お出ししたお茶もそうして入れたんですよ。」

客「どおりで美味しいと思いました。ところで、私の町は〇〇という有名な陶器がとれるんですよ。」

主人「それに上手にお茶を入れて飲んで下さい。きっと美味しく召し上がれますよ。お茶は静岡のお茶でね。」

この宿の主人の会話は、「もてなし」という「文化」と言えます。「文化」とは、人間関係を豊かにしたり、生きることをさまざまな角度から楽しむものと言えます。

静岡文化情報『街かど』 第3号

平成7年9月1日

編集・発行

(財)静岡市文化振興財団

〒420 静岡市追手町5番1号

静岡市教育委員会

文化振興課内

TEL・FAX (054) 255-4746

印刷

株式会社 三 創

静岡市中村町166-1

禁無断転載・複写

愛あるサービス。
新しいサービス。
高品質なサービス。

今年、35周年の「あいネットグループ」の
企業理念は“すてきに愛情表現のお手伝い”。
わたしたちは、地域の人々をネットワークし、
構成企業の連携と独自のノウハウを
高次元に絡ませ、あたたかなふれあいの
中から、皆さまのウォンツをしっかりつかみ、
真に求められるサービスの
提供をめざしています。
結婚式などの冠婚葬祭セレモニーの
お手伝いや、健康で豊かな生活のための
情報やサービスを提供する
「あいネットグループ」。
これからも、育んでくれた静岡・清水の
この街と人と一緒に歩んでいきます。



35周年記念特別企画
マリベール静岡・清水から。

祝
勝
いわいせん

鉄人 道場六三郎
四季のおもてなし



あいネットグループ

株あいネット静岡 株マリベール静岡 株静岡ステーションホテル 株平安祭典静岡 株東海サプライ 株平安セレモニー
株あいネット清水 株マリベール清水 株民間救急サービス 株平安祭典清水 株東海平安自動車 株杉山総業

城下町駿府に華咲いた、工芸・民芸・産業・特産品の数々…。
どこにも負けない、誰にも自慢の、郷土の誇りを集めました。



ほんものづくりネットワーク
駿府 市

Sumida Rakuchi

●「駿府楽市」はJR静岡駅改札口から
西側方向に進んだところにあります。

TEL054-251-1147